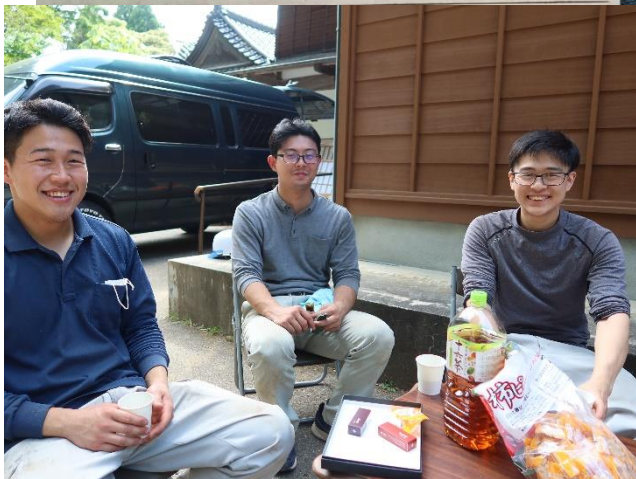


安泉寺ハザード会だより 1. 1号

◆5月22日～23日まで、野呂美道は再び能登・七尾の宝幢寺さんを訪れました。でらボラ名古屋の支援部隊に便乗させてもらいました。その中で、若手の宮大工さん達が仕事をしていました。その報告です



左の新聞記事に、宝幢寺の修復に来ていた宮大工さんたちのことが載っています。その下の写真は、私が彼らと休憩していた時のものです。本当にまだ若い世代が、文化財の復興のために尽力しようとしています。年齢は19才から21歳まで、右端の青年は若干21歳にして、棟梁を拝命しています。信じられないほど私は感動しました。



今、3Kと言われる職業があります。きつい、きたない、危険、といわれる職業。建築業界もその一つになります。でも、それを敢えてこの年齢で引き受ける若者がいるとは驚きました。しかも彼らは「カッコいい!」と感じてこの職業に就きました。「大工の仕事は、死後も残るからね。」と私。解体修理をしたときに、「素晴らしい技だ。」と言われるか、「ひどい修理だ。」と言われるかですね。

次に、先日開かれた防災訓練と、ハザード会の様子をお知らせします。(裏面)



◆6月2日にあま市の主催で、防災訓練が立田地区東海広場(木曾川右岸河川敷)で、行われました。私は偶然二人の知人と出会い、貴重な情報を得ることができました。その一人が、教え子の立松君です。あま市の社会福祉協議会に在籍し、珠洲市の災害応援に行ってきたそうです。早速、ハザード会でその報告を受けました。



◆左の写真、右端が立松君です。その後妻の手作りの夕食(スペシャルとんかつ定食)をほおぼりながら、貴重な現地報告を聞きました。



◆時を同じくして、女川町の鈴木さんから、恒例の銀鮭が届きました。元気のある会員の土方匡紀くんが、さばいてくれました。等分に分けて、各自持ち帰りました。炊き出しの実践訓練になりました。

◆このように、私たちはタイムリーな企画で、活動を続けています。来月は能登を再び訪れ、避難場所開設に向けての情報を得る活動を展開します。